



知ってる？こあら村のもうひとつの顔！！ユーカリ茶屋

こあら村といえば、月・水・金曜のぼけっとば〜くで遊ぶ子どもたちが真っ先に浮かびますが、月1回開催の**ユーカリ茶屋**も、大切な大切な“顔”なのです。**ユーカリ茶屋**は、大田区社会福祉協議会が勧めている「地域支えあい活動ふれあいいきいきサロン」として、昨年10月から行っています。「互いに支えあい、だれもが安心して暮らせるまちづくり」というのが目的で、まさにこあら村の考えるところなのです。また、こあら村では、「多世代交流」という大切な目的がありますので、そのためにもまず、地域の高齢者の方がいきいきと関われる活動を...との思いで大切に取り組んでいます。高齢者と呼ぶにはあまりにも元気で、素敵な参加者に恵まれて、楽しい集まりになっています。

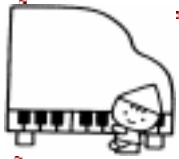
7月は記録的な猛暑のそれも 39 という日に宮川幸代さんを講師にお迎えして開かれました。炎天の下を皆さんが無事にこあら村にいらっしゃってほっとしました。4月に続き今回も座ったままでできる**転倒予防の体操**です。筋力とバランスを保つことが大切だということです。『きよしのズンドコ節』に合わせた楽しい体操もありました。リクエストにより**10月**にもお越しいただいて体も心もほぐれる時間がもてました。



8月は**鎌田やよいさんのライブ**。ギターを弾きながら、美しい歌声を聴かせてくださいました。'60~70年代のフォークを得意とする鎌田さんですが、昭和歌謡も聴かせてくださいました。参加者の皆さんは一緒に歌ったり、ハミングしたり、それぞれの楽しみ方をなさっています。最後に『涙そうそう』をしみじみと聴いてライブは終わりました。



9月は「軽い体操と音楽を楽しむ“こあら村オルゴール”」もう5回目となります。進めるのは神谷都志さん(としちゃん)と馬場睦子さん(むっちゃん)。もうおなじみとなったお二人からのメッセージをどうぞ！



2ヶ月に1度の「オルゴール」。毎回楽しみに伺います。
 こあら村の気持ちの良い空間で、集まって下さった皆様と小さな楽器を鳴らしてその響きに耳を澄ましていると、心がひとつに溶け合っ、とても満ち足りた気持ちになります。
 楽器を持って、はじめはちょっと緊張気味のお顔がきれいな音が出た途端、ニコッと笑顔に変わる・・・ステキな瞬間です。音楽っていいなあ、と改めて感じます。一緒に歌ったり楽器を鳴らしたりすると初めてお目にかかった方でも昔からの知り合いのような気分になるのが不思議です。お茶とお菓子を頂きながらのお話しが弾むのも音楽のお陰でしょうか。
 神谷 都志

こあら村の不思議空間で声の響きを聞き合うと、いい気分になります。体の芯から声を出すと、何だか開放されます。初めて来られた方も、続けて来られている方も、私も、村長も、スタッフも、大きな口で歌って、わっはっはで若返ります。浮世離れた時間です。皆さんがお帰りになるときの若やいだ笑顔、すてきです。
 馬場 睦子



子育てミニ講座終了

10月26日「ちょっぴり気になる子を考える」と題して行われました。講師は坪井久美子さん。青少年・自立支援の会「パルレ」の代表で、LD(学習障がい)のお子さんの親御さんです。参加者は、当事者だけでなく、どう支えたらいいのかわからなくてというお友達が一緒にいらしたり、充実した会でした。当日のレジュメやパルレのリーフレットがありますので、ご利用ください。

第1回こあら村会員総会のお知らせ

日時：2004年12月10日(金)午前11時から
 内容：2004年 事業報告
 (新作パネルシアターなど)
 *10時から16時まで1日無料開放Dayにします。
 会員の方はもちろん、どなたもお越しください。



ばや木の記 其の7
 ことばは世につれ、流れ行く・・・の巷日常生活になりつつある言葉の中に“これどうだったかナ”と首を捻りたくなるものがある。店頭や新聞に挟まれてくるチラシ類の、いかにも新鮮さを売り物にするコピー「採れたて野菜」「採れたてナントカ」...私の記憶では、自分で摘んだ野菜・魚介類を「採る」といい、「採りたて」とはいつでも、「採れたて」とはいわないはず。
 「日本語特区」とかに名乗りをあげた自治体も出ている。外来のイントネーションが格好よさを生んだり、スラングと思われる言葉が、いつの間にか新造語に格上げされていたり。国際化の波の中で知識人たちは母国語の日本語の真髄を小学生からの教育学習にどう取り入れていくのだろうか？国際語云々のほうに目を奪われている親たちに、いまに子どもたちから、「お母さん、その言葉の使い方はないでしょ」との警告が飛ぶ日がこないように心したい。
 村長 拝